

テスト技術者資格制度

サンプル問題 日本語版

Advanced Level シラバス (Version 2012)

テストアナリスト

Version 1.01.J01

International Software Testing Qualifications Board



Copyright Notice

This document may be copied in its entirety, or extracts made, if the source is acknowledged.

Translation Copyright © 2015, Japan Software Testing Qualifications Board (JSTQB®), all rights reserved.

日本語翻訳版の著作権は JSTQB®が有するものです。本書の全部、または一部を無断で複製し利用することは、著作権法の例外を除き、禁じられています。

改訂履歴

◆ JSTQB®

| バージョン | 日付 | 摘要 |
|---------------------|------------|---|
| Version 1.01.J01 | 2015年11月1日 | Sample Questions 2012 Advanced Level Syllabus Test Analyst Version 1.01 の一部をベースに日本向けに作成 |
| | | |

目次

| | |
|---|---|
| 改訂履歴 | 2 |
| 目次 | 3 |
| 謝辞 | 4 |
| 0. はじめに | 5 |
| 0.1 本書の目的 | 5 |
| 0.2 本書について | 5 |
| 1. Advanced Level テストアナリスト サンプル問題 | 6 |
| CTAL-ATA_LO-1.8.1 | 6 |
| CTAL-ATA_LO-3.2.10 | 7 |
| CTAL-ATA_LO-6.4.1 | 8 |

謝辞

このドキュメントは、International Software Testing Qualifications Board Advanced Level Working Group (Examination 作業部会) のコアメンバである Minna Aalto、Rex Black、Mette Bruhn-Pedersen、Debra Friedenber、Brian Hambling、Inga Hansen、Kari Kakkonen、Judy McKay、Stuart Reid、Mario Winter が執筆した。

本コアチームは、Examination 作業部会のレビューチーム、Advanced Syllabus Working Group (Advanced シラバス作業部会) およびすべての国の国際部会のメンバによる提案と意見に感謝したい。

本ドキュメントは、2012年10月19日に開催された ISTQB® の総会で正式に発行された。

0. はじめに

0.1 本書の目的

本サンプル問題集内のサンプル問題、解答、解答説明は、**Subject Matter Experts** チームと問題作成の専門家によって、ISTQB® Member Boards および Exam Boards の問題作成を支援する目的で作成した。

これらのサンプル問題はそのままでは正式な試験の問題としては使用できないが、試験問題作成者の指針として使用される。様々な形式および主題に関連して、これらのサンプル問題は、各国の委員会によって実施される試験のために適切な問題と解答を作成することにおいて、多くのアイデアを提供するものである。

0.2 本書について

問題および解答選択肢は次のように構成されている。

- 学習の目的および K レベル
- 問題 (問題の背後にあるシナリオがある場合はそれを含む)
- 解答選択肢 (正解は**太字**で示される)
- 解答説明

1. Advanced Level テストアナリスト サンプル問題**CTAL-ATA_LO-1.8.1**

TA-1.8.1 (K2) テストケースの実行状態に関する正確な情報が重要である理由を説明する。

問題:

次の記述のうちで、なぜ正確なテストケース実行ステータス情報が重要なのかを最も的確に説明しているものを1つ選択しなさい。

解答選択肢:

- A. 正確なテストケース実行ステータス情報は、ステークホルダーがプロジェクトのステータスに関する知識を獲得することを手助けする。
- B. 正確なテストケース実行ステータス情報は、開発者がどの欠陥を最初に修正すべきかを決定することを手助けする。
- C. 正確なテストケース実行ステータス情報は、テストマネージャが個々のテストチーム要員の効率を評価することを可能にする。
- D. 正確なテストケース実行ステータス情報は、テストチームが同チームのカバレッジを検証することを可能にする。

解答説明:

- A. 正解：テストプロセスの観点では、テスト進捗モニタリングを行うことにより、レポート要件をサポートするための適切な情報を収集できる。モニタリングは、完了に向けての進捗の測定を含む。
- B. 不正解：テストケース実行ステータス情報は、修正すべき欠陥の順番に関することを含めることができるが、もっと重要なことは欠陥の重大度などの他の情報である。
- C. 不正解：テストケース実行ステータス情報は、個々のテスト担当者の効率を評価するためには使用すべきでない。テストケースを通してテスト要員がいかに迅速に対応したかに関して知ることができるが、このステータスだけではマネージャは各テスト要員が各自の時間を効率良く使っているかを判断することはできない。
- D. 不正解：テストケース実行ステータス情報は、ステータスに関するものに限定すべきである。テストケースのカバレッジはもっと早期に検証されるべきである。

CTAL-ATA_LO-3.2.10

TA-3.2.10 (K3) 定義されたカバレッジを達成するために、ドメイン分析テスト設計技法を適用して、特定の仕様アイテムからテストケースを記述する。

問題:

航空機は、航空管制の規定と空港管理の規定に影響するいくつかの要素によって分類される。新しい航空機のサイズに対応するため、最近、この分類体系に対して変更が行われた。航空管制の規定は、航空機の重量と収容可能乗員数の2つの要素における変更に対応するために修正された。

新しいクラスには、乗客が乗っていない時の重量が 4700kg から 9500kg、収容可能乗員数が 350 名から 550 名のすべての航空機が含まれた。

ドメイン分析を使用してテスト設計を行う場合、この航空機の新しいクラスに対する適切なテストを提供しているものはどれか。次の選択肢から1つ選びなさい。

解答選択肢:

| | テストケース 1 | | テストケース 2 | | テストケース 3 | | テストケース 4 | |
|---|----------|-----|----------|-----|----------|-----|----------|-----|
| | 重量 | 乗員数 | 重量 | 乗員数 | 重量 | 乗員数 | 重量 | 乗員数 |
| A | 5500 | 450 | 4700 | 450 | 8500 | 350 | 4000 | 600 |
| B | 5500 | 475 | 4500 | 575 | 4800 | 545 | 9500 | 525 |
| C | 7500 | 375 | 4700 | 550 | 5000 | 500 | 9600 | 600 |
| D | 4700 | 350 | 9500 | 550 | 4500 | 600 | 9600 | 600 |

解答説明:

- A. 正解: テスト 1 は両方(重量および乗員数)の境界内、テスト 2 は重量の境界、テスト 3 は乗員数の境界、テスト 4 は両方の境界外。
- B. 不正解: テスト 1 は両方の境界内、テスト 2 は両方の境界外、テスト 3 は両方の境界内、テスト 4 は重量上限の境界。このセットには、境界内のテストでの重複があり、また乗員数境界でのテストが抜けている。
- C. 不正解: テスト 1 は両方の境界内、テスト 2 は重量の下限境界で乗員数の上限境界、テスト 3 は両方の境界内、テスト 4 は両方の境界外。このセットには、境界内のテストでの重複があり、重量および乗員数それぞれで境界を単独で評価するテストが抜けている。
- D. 不正解: テスト 1 は重量および乗員数の下限境界、テスト 2 は両方の上限境界、テスト 3 は両方の境界外、テスト 4 は両方の境界外。このセットには、境界外のテストでの重複があり、境界内のテストが抜けている。

CTAL-ATA_LO-6.4.1

TA-6.4.1 (K4) 特定の欠陥の分類情報を識別、収集、および記録する。

問題：

消防サービスの制御システムを構築するためのプロジェクトが、行政機関との契約のもとに実施されている。納期に関して厳しいルールがあり、納品遅れが発生した場合はペナルティが課せられる。受け入れ基準としては、ユーザ受け入れの終了時に各重大度レベルでの未解決の欠陥の最大数が規定されている。

システムには、他のシステムにはない革新的な設計に基づく洗練されたユーザインターフェースが搭載されており、これはこのシステムの有効性にとって非常に重要である。

このプロジェクトでは、ウォーターフォール型のライフサイクルを適用しているが、各要件の優先度をベースに分納を実施する。このプロジェクトは開発中には欠陥分類システムを活用し、使用するツールでは3つの分類情報を使用することを許容している。

次の欠陥分類情報のうちで、このプロジェクトのニーズを最も満たしているものを選択しなさい。

解答選択肢：

- A. 重大度別の未解決な欠陥、欠陥が発生したフェーズ (例えば、要件、設計)、現象 (例えば、システムのどの部分が影響を受けているか)
- B. 優先度別の未解決な欠陥、欠陥が発見されたフェーズ、欠陥の疑いのある原因
- C. 欠陥を発見したプロジェクト活動 (例えば、レビュー、インスペクション)、重大度別の総欠陥数、誤りが作りこまれた成果物
- D. 現象、優先度別の未解決な欠陥、欠陥の疑いのある原因

解答説明：

- A. 重大度別の未解決な欠陥：受け入れ基準そのものである。
欠陥が発生したフェーズ：フェーズを特定することで、プロジェクトのコストおよび時間を節約できる。
現象：ユーザインターフェースの欠陥を特定するために活用できる。
- B. 優先度別の未解決な欠陥：受け入れ基準には直接関連していない。
欠陥が発見されたフェーズ：欠陥が発生したフェーズよりは有用でない。
欠陥の疑いのある原因：プロセス改善には役に立つがプロジェクトを進める上では有用性は低い。
- C. 欠陥を発見したプロジェクト活動：プロセス改善には活用できるが、このプロジェクトには直接関連していない。
重大度別の総欠陥数：その時点での未解決の欠陥数のほうが有用である。
誤りが作りこまれた成果物：プロセス改善に活用できる。
- D. 現象：ユーザインターフェースの欠陥を特定するために活用できる。
優先度別の未解決な欠陥：受け入れ基準には直接関連していない。
欠陥の疑いのある原因：プロセス改善には役に立つがプロジェクトを進める上では有用性は低い。

以上のことから、全ての分類情報がこのプロジェクトのニーズを満たしているのはAとなる。